

### 赤外線ワイヤレス受信機

WX-LR100/A

品番 WX-LR100/B



上手に使って上手に節電

※このイラストはWX-LR100/Aです。

#### 保証書別添付

このたびは、赤外線ワイヤレス受信機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- ・この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(4~6ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- ・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

## 本書について

本書は、赤外線ワイヤレス受信機WX-LR100/AとWX-LR100/Bの共通の取扱説明書です。

## 商品概要

本機は、PLL赤外線ワイヤレスマイクロホン（WX-LT100、WX-LT300）（以下、マイクロホン）から送信される赤外線を受信する機器です。

チューナー2台の搭載により、同時に2波のチャンネル(WX-LR100/A：1ch/2ch、WX-LR100/B：3ch/4ch)を受信できます。

- ・本機は赤外線を使用していますので、隣接した部屋からの混信はありません。
- ・マイクロホンには、ハンドヘルド型（WX-LT100）とペンダント型（WX-LT300）があります。ペンダント型は、本機の音声出力レベルを制御できます。

## 付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）	…………… 1冊	以下の付属品は取付工事に使用します。
保証書	…………… 1式	ACアダプター …………… 1個
		束線バンド …………… 1本

## 免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の故意や誤使用、不注意による障害または本商品の損傷など
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害

## 記号のみかた



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

# もくじ

## はじめに

本書について	2
商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
記号のみかた	2
安全上のご注意	4
使用時における通話内容傍受に関するご注意	6
使用上のお願い	7
各部のなまえと働き（前面）	8

## 操作のしかた

使いかた	9
------	---

## 接続・設置のしかた

設置上のお願い	10
各部のなまえと働き（後面）	11
接続のしかた	12
マイクロホンを1本または2本使用する場合	12
マイクロホンを3本または4本使用する場合	13
広いエリアを受信する場合	14
使用する同軸ケーブルについて	15
受光センサー用混合器（WX-LC10）を使用する場合	15
チャンネル設定について	16
設置のしかた	17
ラックへの取り付けかた	17
線材の束線のしかた	18

## 必要なとき

故障かな!?	19
仕様	22
保証とアフターサービス	23

はじめに

操作のしかた

接続・設置のしかた

必要なとき

# 安全上のご注意

必ずお守りください

はじめに

お使いになる人やほかの人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



**警告**

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



**注意**

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

## 警告

### 工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店に依頼してください。

### 異物を入れない



禁止

水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

### 分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因になります。

### 異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

### 不安定な場所に置かない



禁止

落下などでけがの原因になります。

### ACアダプターの電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

## ⚠ 警告

### ACアダプターの電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

### ACアダプターの電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

### コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない



禁止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

### ACアダプターの電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

( 傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない )



禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

### ぬれた手で、ACアダプターの電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。

### 機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない



水ぬれ禁止

水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

### 雷のときは工事、配線をしてはいけない



禁止

火災や感電の原因になります。

### 取付ねじは、しっかりとしめる



落下などで、けがの原因になります。

- 取付工事は販売店に依頼してください。

### ACアダプターは指定のものを使う



指定以外のものを使うと、火災・感電の原因になります。

- 必ず付属のACアダプターをご使用ください。

### 取り付けは、必ず本機の電源を切ってから行う



感電の原因になります。

## ⚠️ 注意

湿気やほこりの多い場所に設置しない



禁止

火災や感電の原因になります。

## 使用時における通話内容傍受に関するご注意

本製品は赤外線を利用した無線システムのため、赤外線の届く範囲内での音声信号の授受が可能となります。赤外線の届く範囲内であれば、障害物（壁など）がある場合を除き、すべての場所に音声信号が届きます。そのため、傍受に関する対策を行っていない場合は、**悪意のある第三者によって、赤外線を故意に傍受し通話内容を聞かれる可能性があります。**

この問題に対応するため、お客様が行おうとする赤外線の送受信範囲の外側に、壁などの障害物を設けることで、問題が発生する可能性を軽減します。

当社では、傍受に対する対策を行わずに使用した場合に発生する問題を十分理解していただいたうえで、お客様の責任において傍受に対する対策を行うことをおすすめします。

傍受に対する対策を行わない、あるいは赤外線ワイヤレスの仕様上やむをえない事情などにより、傍受の問題が発生した場合、当社ではそれによって生じた損害に対する責任は負いかねます。

# 使用上のお願い

**⚠ 警告、⚠ 注意** に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

## 使用電源は、AC100 Vです。(ACアダプター使用時)

消費電力の大きな機器（複写機、空調機器など）と同じコンセントから電源をとらないでください。

## 使用温度範囲は、 $-10^{\circ}\text{C}$ ～ $+50^{\circ}\text{C}$ です。(ACアダプターを含む)

この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因になります。

## 結露について

結露は、故障の原因になりますので注意してください。

以下のようなときに結露が発生しやすくなります。

- 湿度が高いとき
- 冷たい場所から、温度や湿度の高い場所へ移動したとき

結露が発生した場合は、1～2時間程度放置して、結露がなくなったことを確認してから電源を入れてください。

## 長期間使用しない場合

電源スイッチを「切」にして、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

## マイクロホンについて

マイクロホンのチャンネルは、受信機のチャンネルと合わせて使用してください。

マイクロホンどうしは、50 cm以上離して使用してください。

## ノイズについて

電灯器具やプラズマディスプレイなどの電気機器の電源を「入/切」する際に発生するノイズの影響で、受信機から大きなノイズ音が発生する場合があります。

ノイズ音を低減するため、ノイズ源（電源スイッチで電源を「入/切」する機器および電源用のケーブル）から赤外線ワイヤレス機器、および同軸ケーブルを遠ざけてください。

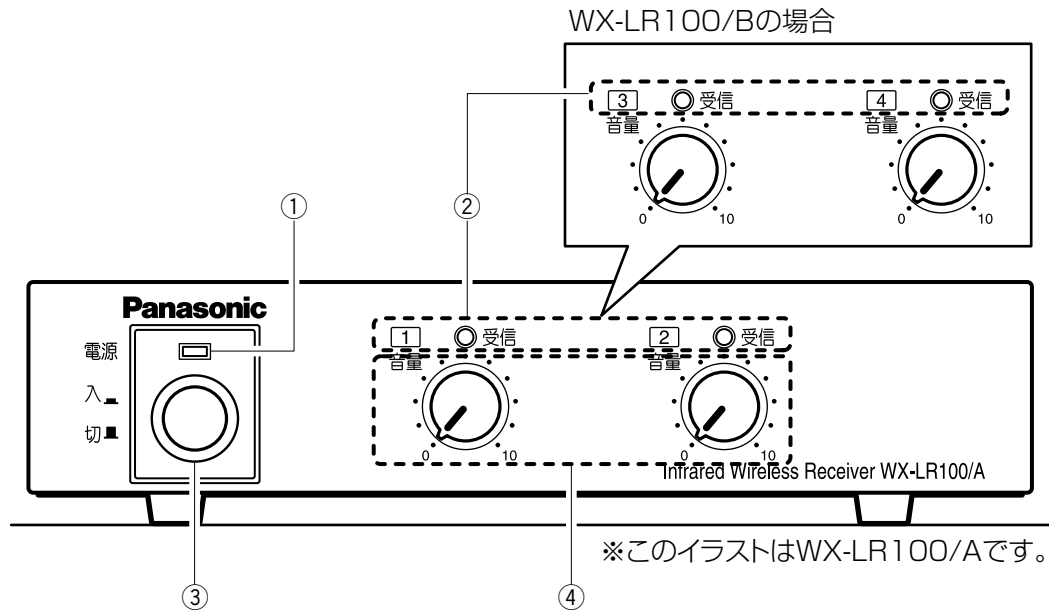
水滴または水しぶきのかからない状態で使用してください。

花瓶などの液体の入ったものを機器の上に置かないでください。

## お手入れについて

汚れたときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはがれることがありますので避けてください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

# 各部のなまえと働き (前面)



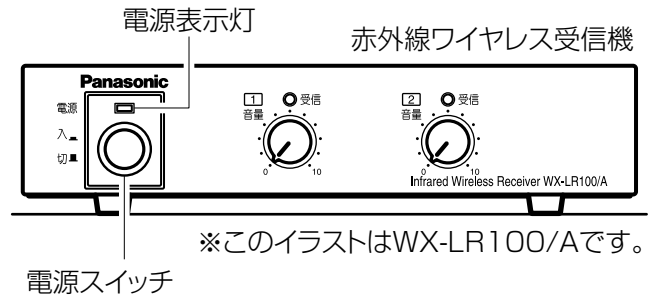
- ① 電源表示灯 (緑色)  
電源スイッチを「入」にすると、緑色に点灯します。
- ② 受信表示灯 [WX-LR100/A: [1] 受信、[2] 受信、WX-LR100/B: [3] 受信、[4] 受信]  
マイクロホンから受信した場合に緑色に点灯します。
- ③ 電源スイッチ  
本機の電源を「入/切」します。
- ④ 受信音量ボリューム [WX-LR100/A: [1] 音量、[2] 音量、WX-LR100/B: [3] 音量、[4] 音量]  
マイクロホンから受信した音量を調節します。



# 使いかた

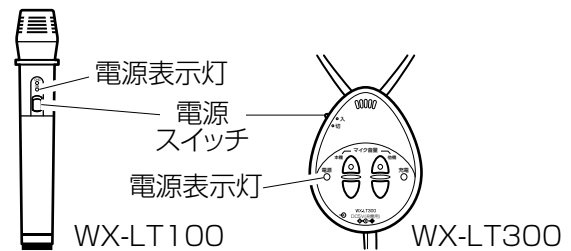
## 1 本機の電源スイッチを入れる

本機の電源表示灯が緑色に点灯します。



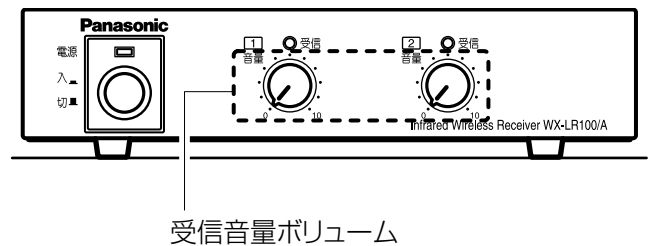
## 2 マイクロホン(WX-LT100、WX-LT300)の電源スイッチを「入」にする

マイクロホンの電源表示灯が緑色に点灯します。



## 3 本機で音量を調節する

受信音量ボリュームで音量を調節します。



使用後は、マイクロホンと本機の電源を切ってください。



- 本機への電源供給は付属のACアダプターを必ずお使いください。



- マイクロホン (WX-LT100、WX-LT300) の取扱説明書もあわせてよくお読みください。

# 設置上のお願い

設置工事は電気設備技術基準にしたがって実施してください。

## ⚠ 警告

**工事は必ず販売店に依頼してください。**

工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

## 電源について

ACアダプターの電源プラグは、必ず遮断装置を介して、次のいずれかの方法で接続してください。

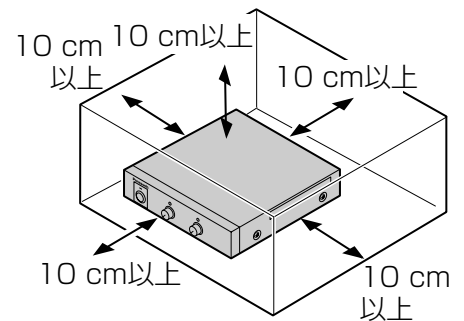
- 本機を電源コンセントの近くに設置する。
- 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。  
ブレーカーは、保護アース導体を除くすべての極が遮断できるものを使用すること。
- 電源制御ユニット（WU-L62）などの電源を遮断できる装置のコンセントを介して接続する。

## 静電気について

静電気による破損を防止するため、作業を始める前に金属部に手を触れ、人体に帯電している静電気を放電してください。

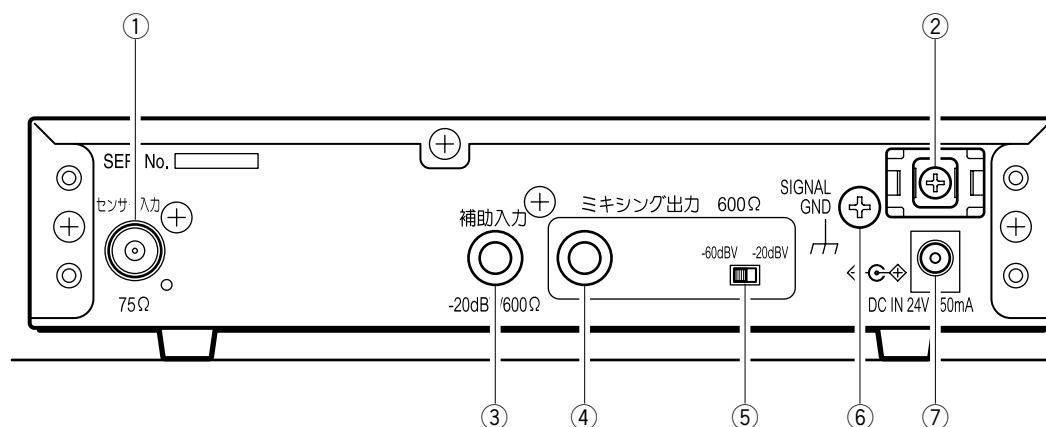
## 設置場所について

- 直射日光の当たる所や、温風吹き出し口付近は避けてください。
- 湿気やほこり、振動の多い場所に設置しないでください。
- 自動車内には放置しないでください。
- トランス、調光器、映像機器、CRTモニターなどからできるだけ離して設置してください。  
近くに設置すると、誘導ノイズを受ける恐れがあります。
- 必ず横置き（水平）に設置してください。
- 壁や天井などから10 cm以上離して設置してください。  
本機は発熱量が多い機器です。内部温度の上昇により保護回路が働き一時的に音が途切れることがあります。
- 電波受信機（ラジオやテレビ、ワイヤレスマイクロホンの受信機）の近くで使用すると、電波受信機側で雑音や誤動作の原因になることがあります。本機と電波受信機は離して使用してください。



- 本機は屋内専用機器です。以下のような場所には、設置しないでください。
  - ・ 雨や水が直接かかる場所（軒下なども含む）
  - ・ プールなど、薬剤を使用する場所
  - ・ 厨房や機械工場などの蒸気や油分の多い場所、および可燃性雰囲気中などの特殊環境の場所
  - ・ 放射線やX線、および強力な電波や磁気の発生する場所
  - ・ 海上や海岸通り、および温泉地などの腐食性ガスが発生する場所
  - ・ 車輻や船舶などの振動の多い場所（車載用機器ではありません）

# 各部のなまえと働き (後面)



※このイラストはWX-LR100/Aです。

## ① センサー入力端子 [センサー入力]

F型コネクタと同軸ケーブルにより赤外線ワイヤレス用センサーを接続します。  
また、センサー用電源 (22 V) を供給します。

## ② ケーブルクランプ用台座

ケーブルを束線バンド (付属品) を使って束線します。

## ③ ワイヤレス補助入力端子 [ワイヤレス補助入力]

赤外線ワイヤレス受信機を増設するときを使用します。

## ④ ミキシング出力端子 [ミキシング出力]

各入力 (赤外線ワイヤレス部、ワイヤレス補助入力ジャック部) からの信号がミキシングされ出力されます。

## ⑤ 出力レベル切替スイッチ [-20 dBV/-60 dBV 600 Ω 不平衡]

ミキシング出力ジャックから出力される信号レベル (-20 dBV/-60 dBV) を切り替えます。

## ⑥ アース端子 [SIGNAL GND]

外部機器 (アンプなど) と組み合わせて使用する場合は、各機器間の電位差をなくすために、各機器のアース端子を接続します。

## ⑦ DC電源供給端子 [DC24 V]

専用ACアダプター (付属品) により、DC24 V電源を供給します。

# 接続のしかた

## 警告

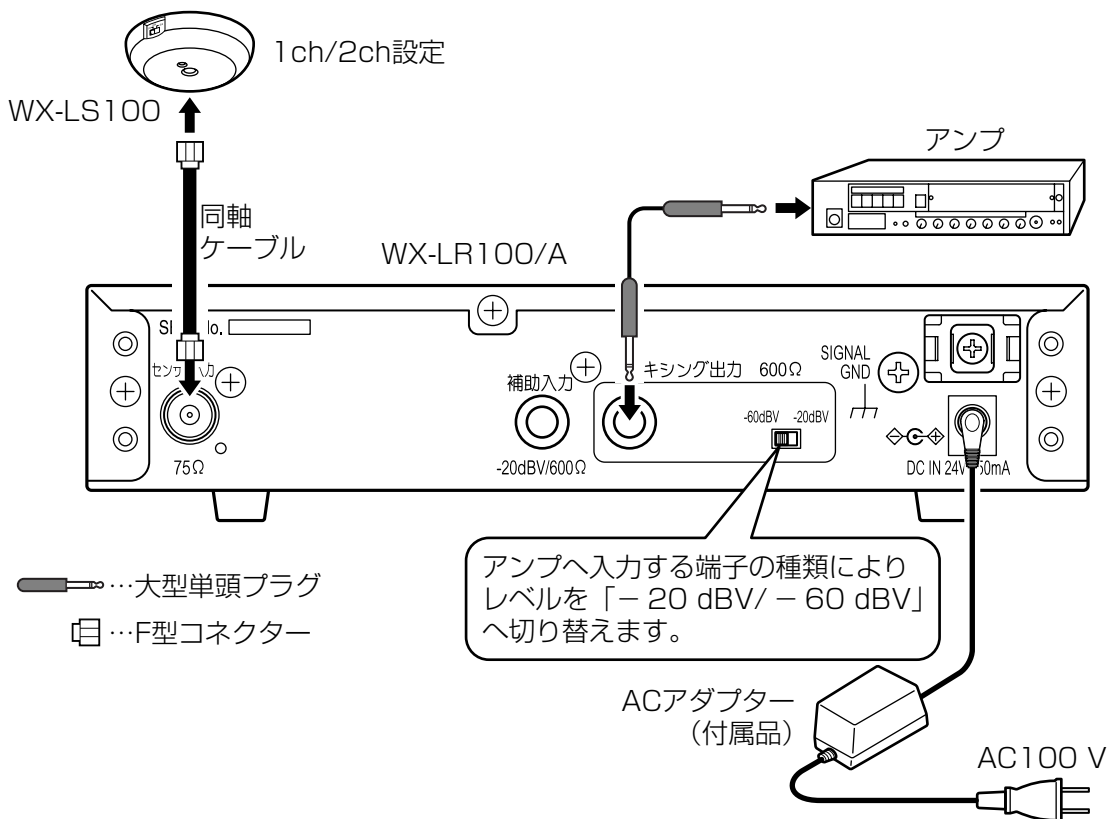
ケーブルを接続する場合は、本機のAC電源コードをコンセントより抜いてから行ってください。

ACアダプターは本機に付属のものを使用してください。

## マイクロホンを1本または2本使用する場合

下図は赤外線ワイヤレス受信機 (WX-LR100/A) を使用し、マイクロホンを1本、または2本使用する接続例です。設置されるセンサーの「チャンネル切替スイッチ」設定は、「1/2 : 1ch/2ch」に設定します。

(WX-LR100/Bを使用の場合は、「3/4 : 3ch/4ch」に設定します。)



接続・設置のしかた

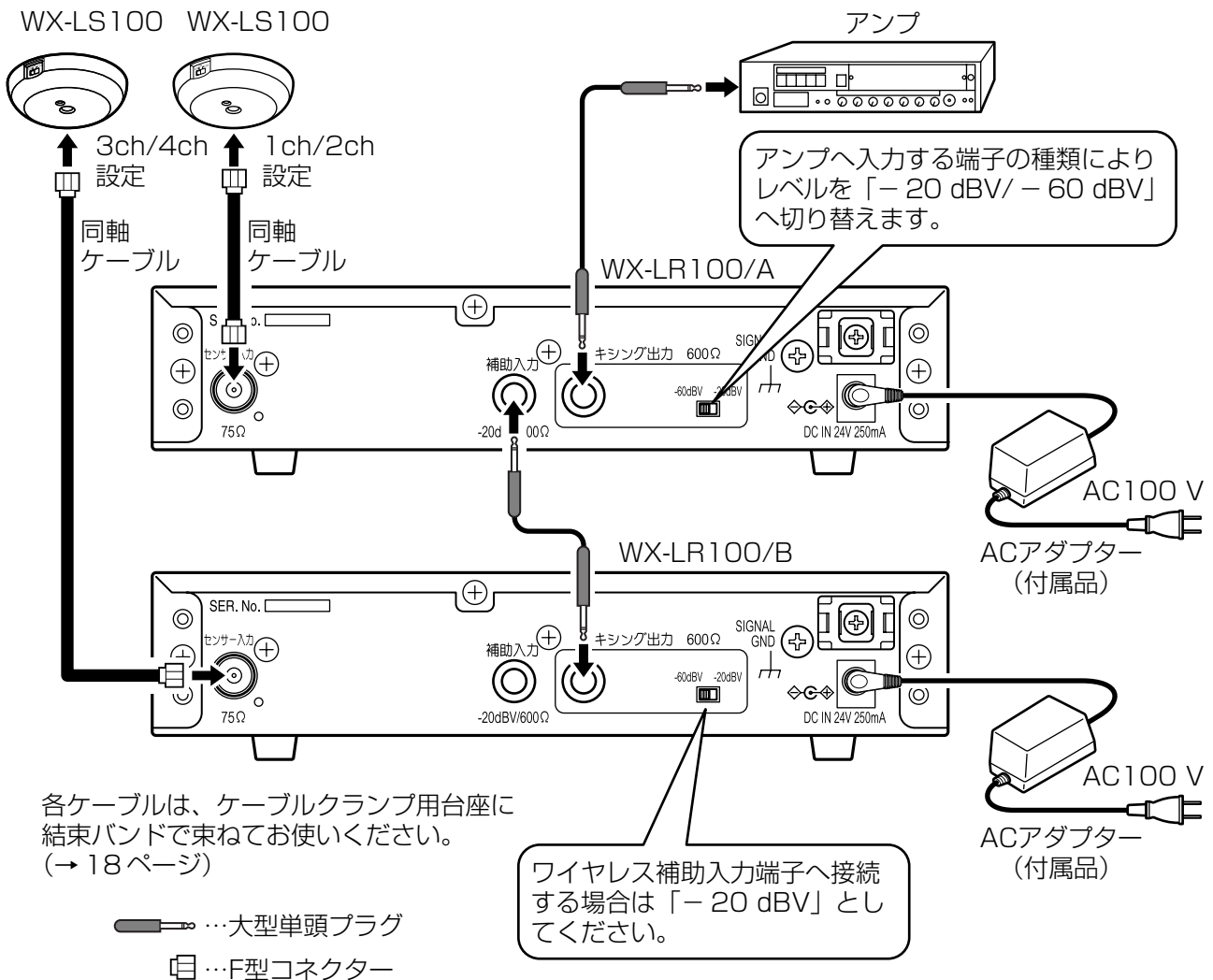


- マイクロホンの送信チャンネルは、使用する受信システムのチャンネルに合わせ使用してください。
- 受光センサー (WX-LS100) の接続を確認して、「チャンネル切替スイッチ」設定を本機の受信チャンネルに合わせて使用してください。受光センサーが接続されていない場合や設定が合っていない場合は、ノイズが発生することがあります。
- マイクロホン (WX-LT100、WX-LT300)、受光センサー (WX-LS100) など、各機器の取扱説明書もあわせてよくお読みください。

## マイクロホンを3本または4本使用する場合

下図は赤外線ワイヤレス受信機（WX-LR100/A、WX-LR100/B）を使用し、マイクロホンを3本、または4本使用する接続例です。

設置されるセンサーは、接続される受信機と同じチャンネルに「チャンネル切替スイッチ」で設定します。



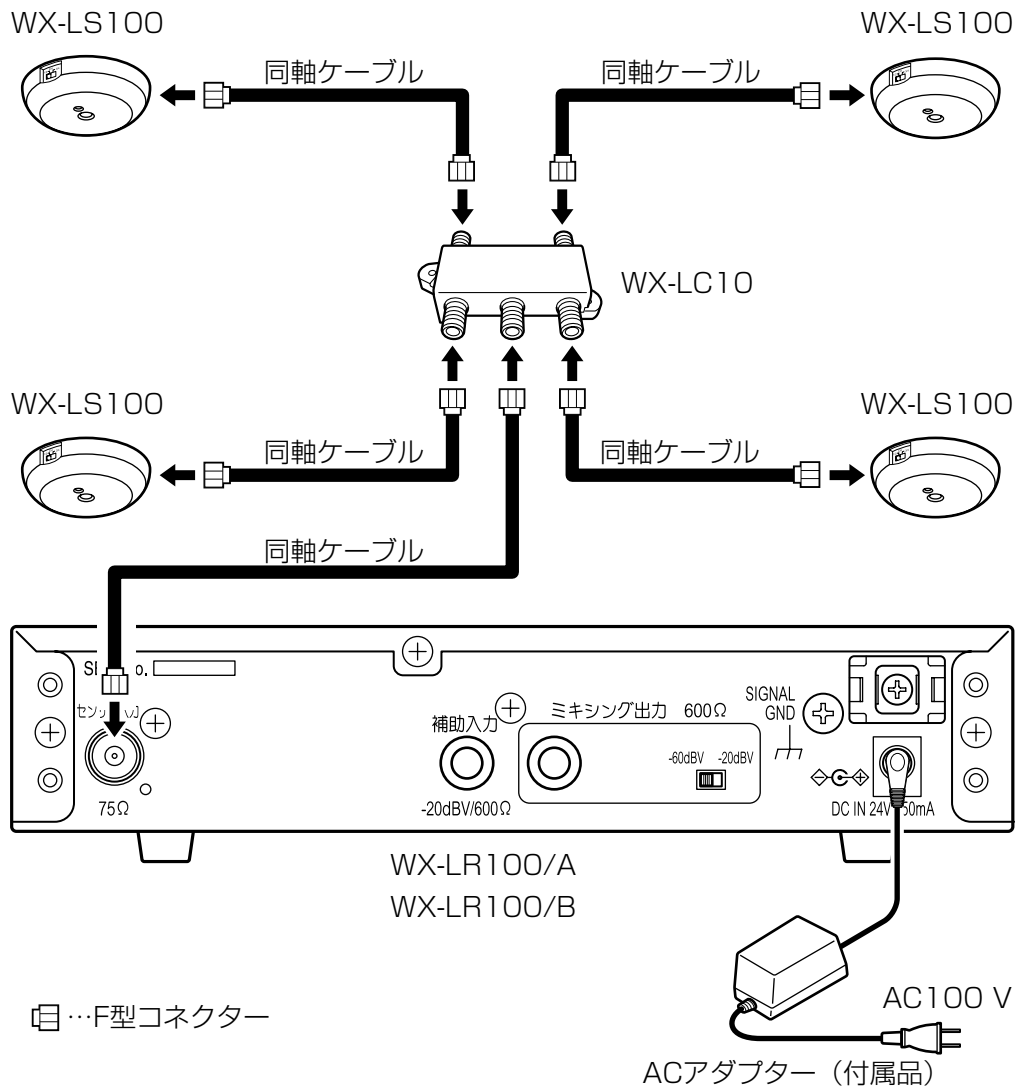
- マイクロホンの送信チャンネルは、使用する受信システムのチャンネルに合わせて使用してください。

# 接続のしかた

## 広いエリアを受信する場合

受光センサー用混合器 (WX-LC10) を使用することで、受光センサー (WX-LS100) を4台まで増設でき、広いエリアを受信できます。

- WX-LR100/Aの場合：「チャンネル切替スイッチ」設定は、すべて「1/2：1ch/2ch」に設定します。
- WX-LR100/Bの場合：「チャンネル切替スイッチ」設定は、すべて「3/4：3ch/4ch」に設定します。



接続・設置のしかた


## 使用する同軸ケーブルについて

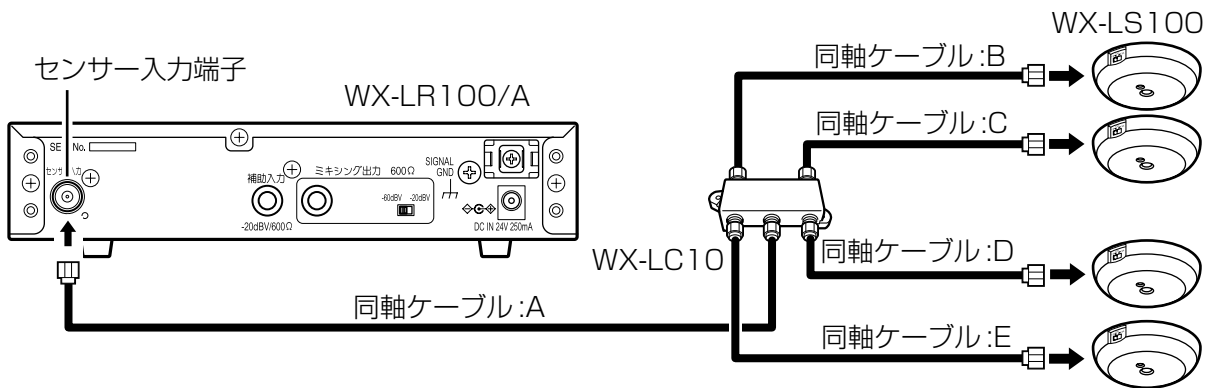
本機と受光センサー間の同軸ケーブル長、および同軸ケーブルの種類は以下のものを使用してください。

- 同軸ケーブル長 : 100 m以内
- 同軸ケーブルの種類 : 5C-2V


### 受光センサー用混合器 (WX-LC10) を使用する場合

下図の同軸ケーブル長は、本機から受光センサー用混合器までの「同軸ケーブル長 : A」と、受光センサー用混合器から受光センサーまでの各同軸ケーブル : B~Eの中で最も長い「同軸ケーブル」の合計が100 m以内の範囲です。

-  ●各受光センサー (WX-LS100) から受光センサー用混合器 (WX-LC10) までの同軸ケーブル : B~Eのケーブルの長さの差は、12 m以内におさまるようにしてください。



- 【良い例1】** 同軸ケーブル長が、A=40 m、B=8 m、C=4 m、D=6 m、E=10 mの場合  
 同軸ケーブルB~E : 12 m以内のため長さの範囲に問題はありません。  
 ケーブル長 : 「A : 40 m + E : 10 m = 50 m」となり問題はありません。
- 【良い例2】** 同軸ケーブル長が、A=60 m、B=30 m、C=35 m、D=25 m、E=33 mの場合  
 同軸ケーブルB~E : (最長 : 35 m) - (最短 : 25 m) = 10 m  
 12 m以内のため長さの範囲に問題ありません。  
 ケーブル長 : 「A : 60 m + C : 35 m = 95 m」で100 m以内のため問題ありません。
- 【悪い例】** 同軸ケーブル長が、A=50 m、B=40 m、C=45 m、D=50 m、E=55 mの場合  
 同軸ケーブルB~E : (最長 : 55 m) - (最短 : 40 m) = 15 m  
 12 m以上あり、長さの範囲に問題があります。  
 ケーブル長 : 「A : 50 m + E : 55 m = 105 m」で100 m以上のためケーブル長にも問題があります。

-  ●F型コネクタを同軸ケーブルに取り付ける場合は、仕様が合致していることを確認してください。また、F型コネクタの取り付け方法にしたがって確実に取り付けてください。
- F型コネクタは、端子への取り付けを確実にするため、ねじ式のものをお使いください。

## チャンネル設定について

使用する機器により、マイクロホンと受光センサーの設定するチャンネルが異なりますのでご注意ください。  
本機がWX-LR100/Aの場合、受光センサー、マイクロホンのチャンネル設定は以下のとおりです。

送受信チャンネル 1ch : 2.30 MHz  
2ch : 2.80 MHz

本機がWX-LR100/Bの場合、受光センサー、マイクロホンのチャンネル設定は以下のとおりです。

送受信チャンネル 3ch : 3.20 MHz  
4ch : 3.80 MHz

### ■マイクロホンのケースを外し送信チャンネルを設定する

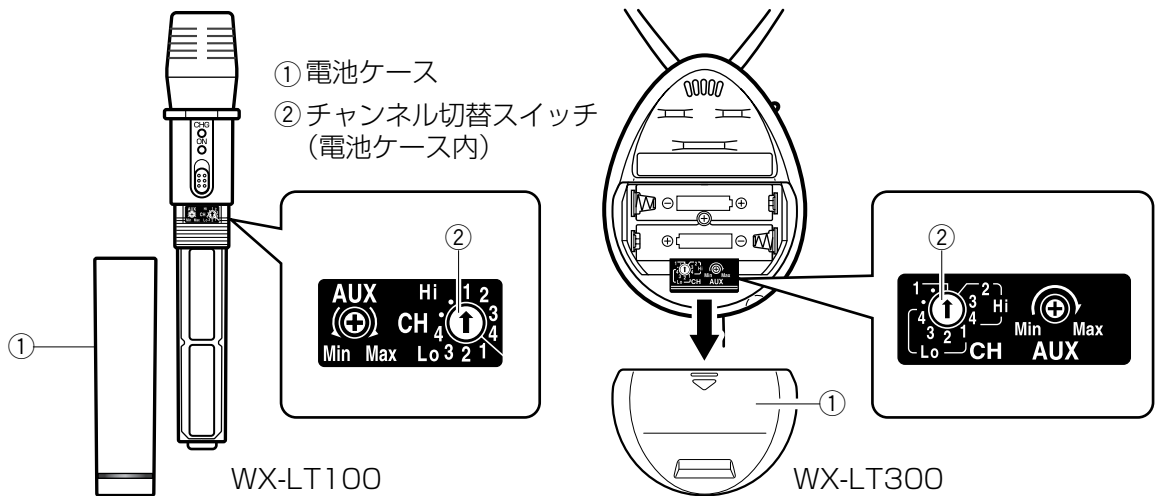
チャンネル切替スイッチのポジションを切り替えることにより、送信チャンネルが切り替わります。使用する本機と同じチャンネルに切り替えます。

Hi		Lo	
ポジション	チャンネル	ポジション	チャンネル
1	1ch (2.30 MHz)	1	1ch (2.30 MHz)
2	2ch (2.80 MHz)	2	2ch (2.80 MHz)
3	3ch (3.20 MHz)	3	3ch (3.20 MHz)
4	4ch (3.80 MHz)	4	4ch (3.80 MHz)

- Hi、Loの切替により、到達距離が以下ようになります。

Hi時 : 実用上半径約8 m } 本機、受光センサーを使用時  
Lo時 : 実用上半径約6 m }

- 通常はHi設定で使用してください。混信が気になる場合や電池を長く持たせたい場合は、Loに設定してください。
- 1~4以外のポジションに設定すると、電源表示灯が点滅します。



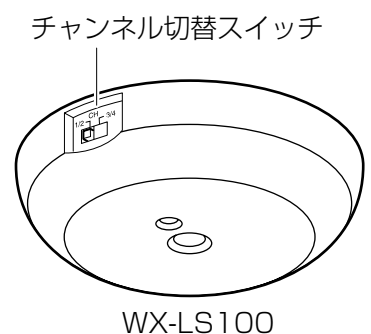
### ■受光センサーの受信チャンネルを設定する

チャンネル切替スイッチで受信チャンネルのポジションを切り替えます。

使用する本機と同じチャンネルに切り替えます。

[1/2] ポジション : 1ch (2.30 MHz)  
2ch (2.80 MHz)

[3/4] ポジション : 3ch (3.20 MHz)  
4ch (3.80 MHz)





# 設置のしかた

## ラックへの取り付けかた

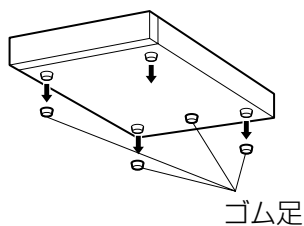
本機を取り付けるラックは、次のいずれかを使用してください。

スタンダードラック：WU-RS80 収納ユニット数29U（当社製）※従来品のWU-RS71もお使いいただけます。

ロングラック：WU-RL85 収納ユニット数41U（当社製）※従来品のWU-RS76もお使いいただけます。

EIA規格相当品：EIA19型、奥行き450 mm以上のもの

### 1 本機底面のゴム足（4個）を取り外す

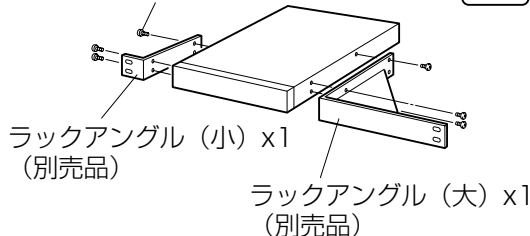


### 2 本機両側面にラックアングル（別売品）を取り付け、ラックアングル取付ねじ（別売品）で確実に固定する

ねじ（M3）の締付トルクは、98～118 N・cm {10～12 kgf・cm}です。

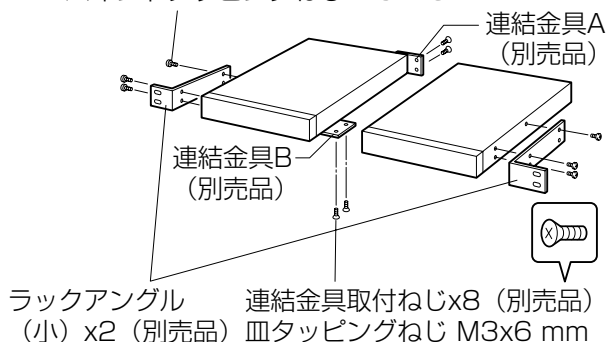
#### ・1台取付時

ラックアングル取付ねじ x6（別売品）  
バインドタッピングねじ M3x10 mm



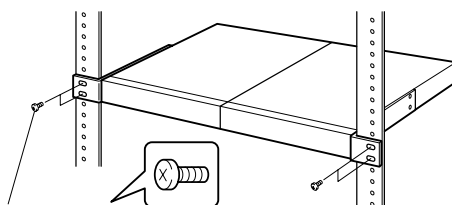
#### ・2台取付時

ラックアングル取付ねじ x6（別売品）  
バインドタッピングねじ M3x10 mm



### 3 本機をラックに取り付け、ラック取付ねじ4本で、確実に固定する

ねじ（M5）の締付トルクは、157～177 N・cm {16～18 kgf・cm}です。



ラック取付ねじ x4

当社製ラックの場合：バインドタッピングねじ  
M5x12 mm（別売品）

他社製ラックの場合：W2-MSS/5008、または  
M5x12 mmねじ（別売品）



●ラック内の温度は、+40℃以上にならないようにしてください。

●本機は発熱量の多い機器（電力増幅ユニットやパワーアンプなど）の近くに設置しないでください。

やむをえず、近くに設置する場合は、上下に1U（44 mm）以上の間隔をあけてください。

●他社製ラックに取り付ける場合は、別売りのラック取付ねじ（W2-MSS/5008）、またはM5×12 mmねじ（4本）が必要です。別売品に付属されているラック取付ねじ（バインドタッピングねじM5×12 mm）を使用すると、ラック取付部のねじ山を壊す恐れがあります。

●熱に弱い機器を同じラックに取り付けるときは、本機より下側に取り付けてください。

●ラックは通気性の良い場所に設置してください。ラック内に熱がこもるときはラック内の温度が+40℃以上にならないように換気対策を行ってください。



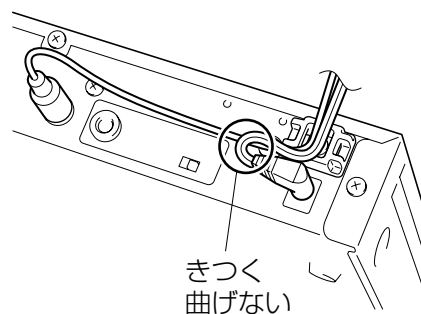
●連結金具B（別売品）は1個しか使用しません。

## 線材の束線のしかた

### 1 ケーブル類を束ねてケーブルクランプの上に通す

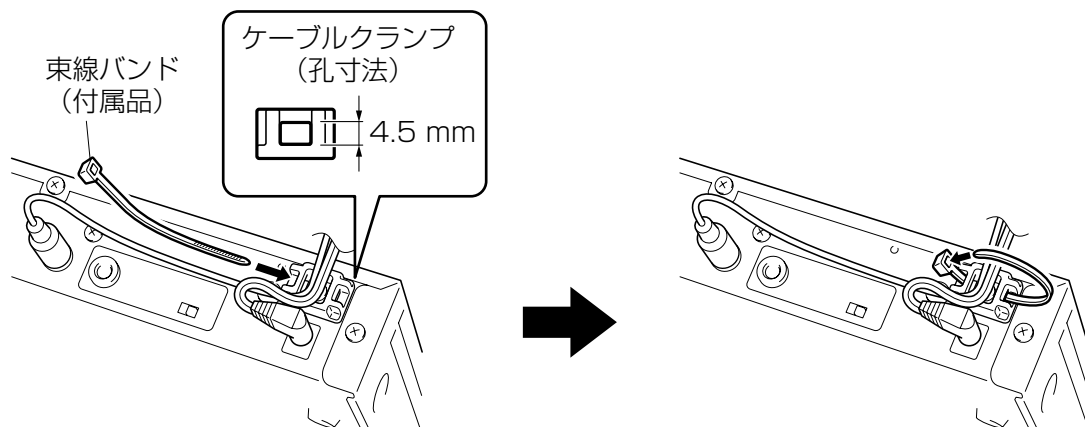
本機後面の各ケーブルを束ねて、ケーブルクランプ用台座の上に通します。

その際、ケーブルクランプ用台座に近いACアダプター（付属品）のプラグの根元が、きつく曲がらないように束ねます。



### 2 束線バンド（付属品）で線材を固定する

付属の束線バンドをケーブルクランプ用台座に取り付け、線材を固定します。



# 故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ACアダプターの電源プラグがACコンセントに確実に接続されていますか？</li> <li>➔ 接続されているか確認してください。</li> </ul>	12、13、14
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ACアダプターからのDCプラグが本機に確実に差し込まれていますか？</li> <li>➔ 差し込まれているか確認してください。</li> </ul>	12、13、14
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電源スイッチが「切」になっていませんか？</li> <li>➔ 電源スイッチを「入」にしてください。</li> </ul>	8、9
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受信音量ボリュームが左に回されていませんか？</li> <li>➔ 右に回すと音が出ます。 お好みの出力レベルに調節して使ってください。</li> </ul>	8、9
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● センサー入力端子から入力線が外れていませんか？</li> <li>➔ センサー入力端子に入力線を挿入してください。</li> </ul>	12、13、14
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ミキシング出力ジャックから出力線が外れていませんか？</li> <li>➔ ミキシング出力ジャックに出力線を挿入してください。</li> </ul>	12、13
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出力レベル切替スイッチは正しく設定されていますか？</li> <li>➔ 出力レベル切替スイッチを正しく設定してください。</li> </ul>	12、13
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロホンの電源（電池）は入っていますか？</li> <li>➔ マイクロホンに電池を入れ送信状態にしてください。</li> </ul>	WX-LT100、 WX-LT300の 取扱説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロホンが送信するチャンネルと本機の受信するチャンネルの設定は合っていますか？</li> <li>➔ マイクロホンチャンネル設定を本機の受信チャンネルと同じにしてください。</li> </ul>	16

必要なとき

# 故障かな!? (つづき)

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本機が受信するチャンネルと受光センサーのチャンネル設定は合っていますか？</li> <li>➔受光センサーのチャンネル設定を本機の受信チャンネルと同じにしてください。</li> </ul>	16
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●F型コネクタ処理部の接続不良、同軸ケーブルの断線はありませんか？</li> <li>➔F型コネクタ、同軸ケーブルを確認してください。</li> </ul>	12、13、14
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受光センサーのF型コネクタは、正しく接続されていますか？</li> <li>➔接続を確認してください。</li> </ul>	12、13、14
時々受信できなくなる、ノイズが発生する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●近くにプラズマディスプレイやノイズ源となる機器がありませんか？</li> <li>➔本システム、および同軸ケーブルからノイズ源を遠ざけてください。</li> </ul>	7
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●F型コネクタ処理部の接続不良、同軸ケーブルの断線はありませんか？</li> <li>➔F型コネクタ、同軸ケーブルを確認してください。</li> </ul>	12、13、14
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本機または受光センサー間のF型コネクタは、正しく接続されていますか？</li> <li>➔接続を確認してください。</li> </ul>	12、13、14
混信する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マイクロホンの送信機チャンネルが重複していませんか？</li> <li>➔マイクロホンはすべての異なるチャンネル（周波数）にしてください。</li> </ul>	16
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●複数のマイクロホンを近づけて使用していませんか？</li> <li>➔距離を離して使用してください。</li> </ul>	7
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マイクロホンを受光センサーに近づけて使用していませんか？</li> <li>➔距離を離して使用してください。</li> </ul>	WX-LT100、 WX-LT300、 WX-LS100の 取扱説明書

必要なとき

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
<p>混信する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロホンの送信出力レベルが「Hi」になっていませんか？</li> <li>➔ 「Lo」に切り替えてください。</li> </ul>	16
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近くに高周波を使う機器や雑音源があると、混信する場合があります。</li> <li>➔ マイクロホンと受光センサーの距離を短くして使用してください。</li> </ul>	10
<p>音が途切れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本機が受信するチャンネルと受光センサーのチャンネル設定は合っていますか？</li> <li>➔ 受光センサーのチャンネル設定を本機の受信チャンネルと同じにしてください。</li> </ul>	16
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロホンの送信出力レベルが「Lo」になっていませんか？</li> <li>➔ 「Hi」へ切り替えてください。</li> </ul>	WX-LT100、WX-LT300の取扱説明書
<p>電源コードの被ふくが傷んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電源コード・コネクター・電源プラグが傷んでいます。そのままの状態を使い続けると、感電や火災の原因になります。ただちに電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。</li> </ul>	
<p>使用中、電源コード・コネクター・電源プラグの一部が熱い</p>		
<p>使用中、電源コードを曲げたり、伸ばしたりすると、暖かくなったり、ぬるくなったりする</p>		

必要なとき

# 仕様

電源	DC24 V (付属品専用ACアダプター使用のこと)
消費電流	250 mA
センサー入力	75 ΩF型コネクター (適合受光センサー：WX-LS100) WX-LS100用電源出力 (DC22 V 100 mA (最大))
受信チャンネル (副搬送波周波数)	WX-LR100/A 1ch：2.30 MHz/2ch：2.80 MHz WX-LR100/B 3ch：3.20 MHz/4ch：3.80 MHz
受信方式	同調ストレート検波方式
受信感度	S/N50 dB以上 (30 dB $\mu$ V入力、 $\pm$ 12.5 kHzFMにて)
スケルチレベル	25 dB $\mu$ V (受光センサー含む)
トーンスケルチ周波数	32.768 kHz
S/N	60 dB以上 (60 dB $\mu$ V入力、 $\pm$ 12.5 kHzFMにて、聴感補正A)
音声信号処理	2倍対数伸長 (1：2デシリニア伸長)
ひずみ率	1.0 %以下 (60 dB $\mu$ V入力、 $\pm$ 12.5 kHzFMにて)
周波数特性	100 Hz～10 kHz
ディエンファシス	50 $\mu$ s
補助入力	-20 dBV 600 Ω 不平衡 大型単頭ジャック
ミキシング出力	-20 dBV/-60 dBV 切替可能 600 Ω 不平衡 大型単頭ジャック
最大出力	-2 dBV (-20 dB切替時)
残留雑音	30 $\mu$ V以下
音量制御 (※1)	2 dBステップで可変 (+6 dB～-16 dBの範囲 (電源OFF/ONにより、リセット))
使用温度範囲	-10 $^{\circ}$ C～+50 $^{\circ}$ C
寸法	幅210 mm 高さ44 mm 奥行き210 mm (高さはゴム足、奥行きはつまみなど突起含まず)
質量	約1.1 kg
仕上げ	AVライトグレイ色塗装

※1) 音量制御可能マイク：赤外線ワイヤレスマイクロホン (WX-LT300)

修理・お取り扱い・お手入れ  
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ  
お申し付けください

## ■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

## ■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、この赤外線ワイヤレス受信機の補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。  
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 修理を依頼される時

19～21ページにしたがってご確認のあと、なお異常のあるときは、ACアダプターを電源コンセントから抜き、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- **保証期間中は**  
保証書の規定にしたがって、出張修理をさせていただきます。
- **保証期間を過ぎているときは**  
修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。  
下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。
- **修理料金の仕組み**  
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
  - 技術料** は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
  - 部品代** は、修理に使用した部品および補助材料代です。
  - 出張料** は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

### ご連絡いただきたい内容

製品名	赤外線ワイヤレス受信機
品番	WX-LR100/A、WX-LR100/B
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

<b>便利メモ</b> おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WX-LR100/A、WX-LR100/B
	販売店名	電話 (      )      -				

**松下電器産業株式会社**  
**ブロードメディア本部**

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410